

- 議長（河野） 2番、森繁樹君。
- 2番（森） はい。議長。
- 議長（河野） 森君。
- 2番（森） はい。2番、森です。
- 議長（河野） 森君。
- 議長（河野） なお、森君は一問一答であります。1番目の質問を許します。
- 2番（森） 通告に従い、1問目の質問をさせていただきます。

「旧西分保育所の今後の活用について」。UDNとの契約が終わり、今後の旧西分保育所の活用でサテライトオフィスとして利用いただける企業を募集されるとお聞きしていますが、どのような業種の企業で考えているのか、どのように募集をしていくのか。その他検討されている点などを教えてください。

- 議長（河野） 谷岡副町長。
- 副町長（谷岡） 議長。
- 議長（河野） 谷岡君。
- 副町長（谷岡） 森議員の1点目のご質問の「旧西分保育所の今後の活用について」お答えをいたします。

旧西分保育所については、西分地区の活性化に寄与することを目的に包括連携協定を締結した株式会社UDNと令和2年4月1日から令和5年3月31日の3年間の使用貸借契約により、UDN香川FCの選手寮として活用してきましたが、令和5年3月に株式会社UDNが解散する結果となり、旧西分保育所の使用貸借契約についても終了したところであります。

旧西分保育所は現在、未利用の公共施設となっており、その後の利活用については、令和5年度重点施策である過疎地域活性化推進事業の一環として旧西分保育所を活用したサテライトオフィスの誘致を目指してまいります。

地方への進出を検討している企業は、サテライトオフィスを新規事業開発の拠点として活用し、新たなビジネスの創出や人材確保などを期待しており、本町の地域資源や地域課題を整理し、本町ならではの明確な誘致戦略を策定することで、業種を問わず地域に根ざした新たなビジネスの創出や地域経済の活性化を図る企業とのマッチングを目指してまいります。

サテライトオフィスの形態としては、社員が常駐し本社機能の一部を持たせる「滞在型オフィス」と地域にオフィスを所有せず、複数社で同じオフィスを共有するシェアオフィスなどを利用しながら都市部と地方を行き来する「循環型オフィス」など様々な形態がありますので、企業ニーズにあわせて柔軟に対応していきたいと考えています。

サテライトオフィスの効果として、移住者増加、地域自治の継承、雇用創出、地域課題の解決などがありますので、サテライトオフィスの誘致を実現させ、進出企業、地域住民及び行政が連携し、地域経済の発展を目指すことで過疎地域の活性化につなげてまいります。

以上、森委員の質問に対する答弁といたします。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○2番（森）はい、議長。

○議長（河野）森君。

○2番（森）はい。再質問させていただきます。答弁ありがとうございました。

町の誘致する企業の方針があらかた分かったと思います。いろいろ他の市町のサテライトオフィスを見ていると、IT企業が多いのかなとは思いますが、違う分野なんですけれども空き家の利活用に着目して、コワーキングスペースやシェアオフィスとして、企業が企業を呼ぶという形で成功されているところは、ちらほらあるように思います。いい企業がドーンと1個入っていただくのもいいと思うんですけれども、広がっていくってことにつなげられるような企業、企業が企業を呼んで、人が人を呼んでという仕組みを作っていただけるのが、いいのかなというふうに思っております。それは、加味して検討していただけたらと思います。

また視点が違うところからの意見なんですけれども、一昔前はやっぱりIT企業さんがネット環境があるところっていうのがメリットというか、売りになってたと思うんですけれども、最近は、ネット環境も整ってきたところ多いと思うので、アピールするポイントとしてはやっぱり弱くなってきているのかなと。踏まえますと、町の魅力を出すっていうところが一番大事ではあると思うんですけれども、高松空港が近いとか、LCCのことも考えますと、海外企業の誘致っていうのも、いい策なのではないかと思えます。日本よりITに強い国も多いですし、海外企業の誘致から外国人観光客の増加とかにつなげる策も、幅が広がるのかなと思います。もちろん日本の企業は駄目というわけではありませんけれども、そういった視点で、幅を広げてみるというのは現在検討にあるのかとか、今後どう検討されていくかというところを質問します。

○議長（河野）福家いいまち推進室長。

○いいまち推進室長（福家）はい。

○議長（河野）福家君。

○いいまち推進室長（福家）失礼します。森議員ご質問の件について答弁いたします。まず1点目のですね、空き家の利活用とかに、企業が企業を呼ぶような仕組みづくりというところについても含めてですね、お答えをいたします。

まず答弁でもございましたように、空き家の利活用等も含めて、企業及びサテライトオフィスの検討につきましては、これは大事なことは、地元になにか問題であるかというところを町の方が明確にして、押し出していくということにあると思います。町の方がこういった企業を望んでいるという誘致の戦略を明確にすることによって、綾川町に入ってくる企業が入ってきやすくなるような環境づくりをこれから進めていきたいと思えます。議員ご質問の通り、企業が企業を呼ぶ仕組みづくり、これは先進地の事例では、すでに成功してる事例もございますので、こういったところ先進地の事例を検討して前向きに進めていきたいと思えます。

続いて2点目のですね、海外企業の誘致の部分でございますが、これも先ほどの答弁と重なりますが、こういった企業誘致の戦略のほうを十分に立てた上で、検討してまいりたいと思います。以上でございます。

○議長（河野） 再々質問はございませんか。

○2番（森） はい。議長。

○議長（河野） 森君。

○2番（森） 答弁ありがとうございました。

地元の問題で、今上がっている、特に力を入れていこうとしてるものっていうのを、いくつっていうわけではないんですけど、特に力を入れていくところをお願いします。

○議長（河野） 福家いいまち推進室長。

○いいまち推進室長（福家） はい。

○いいまち推進室長（福家） 森議員さんの再々質問についてお答えをいたします。

地元の問題について、どこに力を入れていくのかというようなご質問であったかと思えます。これにつきましては、重点施策の一つであります過疎地域の推進事業の中で、今後、綾上の過疎地域の各4地区の方に私ども入ってまいります。その中で、地元の問題点を洗い出しをして、それでその問題点に対して検討していきたいと思っております。特に、これにつきましては、当然過疎地域の住民の方が、過疎の問題を自分の問題として認識することによって、ともに取組んでいきたいと思えます。過去のような、カスタマーというような関係性ではなくて、パートナーシップで取組んでいきたいと思っております。以上でございます。

○2番（森） ありがとうございます。

○議長（河野） はい。森君の1問目の質問が終わり、2問目の質問を許します。

○2番（森） はい、議長。

○議長（河野） 森君。

○2番（森） それでは続いて2番目の質問をさせていただきます。

「警報に伴う学校の対応について」。先日の台風2号による大雨で警報が発令しましたが、小中学校では、登校後であったため、その後の下校となりました。町民の皆様から意見を多く聞いたものとして、すぐ帰らせるのは逆に危険ではないか。なぜ小学校と中学校で対応が変わるのか、などです。その点を踏まえ、警報発令時のマニュアルはどのようなになっているのか、どのように対応を決めているのかに関して教えてください。

○教育長（松井） 議長。

○議長（河野） 松井教育長。

○教育長（松井） はい。

○教育長（松井） 森繁樹議員ご質問の「警報にともなう学校の対応について」お答えを申し上げます。

警報発令時の小中学校の対応については、教育委員会、校長会で協議し、対応要領を定めております。内容は、町に「暴風」「大雨」「洪水」「大雪」のいずれかの警報が発

令されている場合は、「自宅待機」とし、その後、午前9時までに警報が解除されない場合は「臨時休校」としてあります。綾上小学校については、通学バスの関係により、午前7時までに解除されない場合を「臨時休校」としてあります。

午前9時までに解除された場合、小学校は無線放送および保護者メールに従い登校、中学校は昼食を食べて午後0時30分までに登校し、4、5、6時間目の授業を行うこととしてあります。

また、登校後に各種警報が発令された場合は、「学校待機」とし、下校は「警報解除後」と定めていますが、警報が長時間と予想され、解除となる時間が分からない場合など、警報発令下で下校させる必要があると判断した場合は、小学校は保護者へ引き渡し形での下校、中学校は教職員の指導のもと下校することとしてあります。このように基本的な対応要領は定めてありますが、いずれの場合も、その状況に応じた判断をし、対応については、保護者メールや無線放送を利用し、周知しています。

6月2日の警報時の対応については、小・中学校児童生徒の登校後、9時30分ごろに洪水警報が発令され、気象庁に早期の解除はないということの確認をしました。小学校においては、警報発令時は、保護者引き渡しでの下校と定めていることより、保護者への連絡、迎えの時間を考慮し、給食後の下校といたしました。中学校においては、生徒自身で下校するため、雨量が増し、道路の冠水の危険等が発生する前の方が安全であると考え、10時下校としました。今回の対応は、下校させる時間において、小・中学校で個別対応となりましたが、先ほど申し上げました通り、対応要領を基本にしつつも、常に安全面を重視し、柔軟に実施しておりますこと、ご理解いただけたらと思います。

今後とも、各機関との連携を密に情報収集を行い、子どもたちの安心、安全な学校運営に努めてまいります。

以上、森繁樹議員の「警報にともなう学校の対応について」の答弁といたします。終わります。

○議長（河野）再質問はございませんか。

○2番（森）はい。議長。

○議長（河野）森君。

○2番（森）はい。

○2番（森）答弁ありがとうございました。

今回の対応が、全然否定するものでは全然ないということをも、ご理解いただいた上でですね、とはいえ、やはり意見、こういった意見が町民から、出るということも自然だと思います。そういう意味での説明という意味でも答弁ありがとうございました。

1点、2点なんですけれども、マニュアルがあつてということですが、今回の件が終わってみて、ここはこうだったかなとかこうの方がよかったなみたいな協議や議論っていうのはあつたのか、また今後していく予定はあるのかという点の一つ。

給食を廃棄したと聞いてるんですけれども、フードバンクへの寄付だったり、何らか

の形で利用するっていうことに関して、何か考え方はあるのかという2点お願いします。

○議長（河野）岡下学校教育課長。

○学校教育課長（岡下）はい、議長。

○学校教育課長（岡下）森議員の再質問にお答えいたします。

まず、今回の対応についてどうだったかという検証につきましては、1点、中学校にしましては、思った以上に、朝送ってこられてる家庭が多く、10時に下校ということになったんですけれども、送ってくる方々に関しましてはランチルームで待機というような形をとったんですが、非常にこれが多かったということで、送り迎えのその車の混雑というのも非常にあったというところでありましたので、そういったことも考えると、迎えに来る時間というのを例えば学年とかクラスごとでちょっとずらしてもよかったのかなというような検討は今後あるのかということ、中学校とは協議をしています。

ただ、本来の通学方法以外の対応を個別になかなか要綱とかで定めるわけにもいかず、対応するわけにもいかないの、その時その時の対応ということになるかというふうなところでございます。

もう1点給食につきましては、フードバンクへの寄付ということではありますが、現在そういったことを今考えられているわけではございませんので今後の検討課題とさせていただきます。以上です。

○議長（河野）再々質問はございませんか。

○2番（森）はい、議長。

○議長（河野）森君。

○2番（森）はい。

○2番（森）答弁ありがとうございました。

フードバンクの検討も、やっていただけるとのことなので、何が言いたいかと言いますとですね、マニュアルっていうのはやっぱアップデートしていくべきものだと思うので、その話し合いもあったようなので、今後そういったところに力を入れていくことをお願い申し上げて、生徒が安全で過ごせるように、これからもよろしく願いますということで僕の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（河野）はい。要望として取り扱いますね。

○議長（河野）以上で森君の一般質問を終わります。